



パワー浜松ロータリークラブ週報 2015年2月3日号 本年度テーマ: Rotary Mind、Rotary Wayを確認しよう～ 心で感じて・考えて・活動しよう～

パワー浜松ロータリークラブ (2014-15年度会長: 小林昭次)
〒430-7733 浜松市中区板屋町111-2 オークラクトシティホテル浜松 4307号室
Tel: 053-452-0800 Email: info@power-hamamatsurc.jp
http://www.power-hamamatsurc.jp

創立: 2002年10月22日 認証伝達式: 2003年4月29日 スポンサークラブ: 浜松中RC



第567回例会 2月3日 AM7:30～8:30

オークラクトシティホテル浜松3Fチェルシーの間

- 司会: 鈴木和行 ●点鐘: 小林昭次
- ロータリーソング: 希望のエンジー
- ゲスト: 浜松RC 松田宏一様、浜松RC 鈴木健一様、袋井RC 西垣隆英様
米山記念奨学生 暢婉君さん
- 議事: 国際奉仕委員会「ドイツのマイスター制度とドイツのものづくり」

<出席報告>本日出席率69名 86, 25% 前々回出席率85, 0%



■会長挨拶

おはようございます。松田宏一ガバナー補佐、鈴木事務局長、ようこそお越しいただきました。西垣様、ごゆっくりお過ごしください。暢婉君さん、宜しくお祈いします。

それから今日は角様にドイツからお越し頂きました。私の娘が一年間ドイツに留学していたものですから、ドイツに関心が高くてですね、今日の卓話を楽しみにしています。じっくりとお聞きしたいと思います。

2月になりましたが、2月という我々の会社では翌年度の事業計画を作るということでなかなか忙しい時にあたるのですが、それと並行して、私は野球好きですから、キャンプが始まります。その間は野球の話題に触れなくて、やっと野球の話題が出たなという事でさっそく昨日スポーツ新聞をたくさん買い込んで新幹線に乗ったのですが、野球に夢中になって携帯電話を新幹線の中に忘れまして。まあすぐ気が付いたので今日着払いで自宅に着くという事です。なんとかよかったなあと思います。是非皆さんも携帯電話を忘れないように。

今日は角様のドイツの色々な話を聞けるといいますので楽しみにしております。今日一日よろしくお祈いします。

■幹事報告

- ・ 「ロータリーの友2月号」、「抜粋の綴り」を配布
- ・ ガバナー月信2月号は次回例会時に配布予定
- ・ 2月10日(火)は次年度予定者会議です

■委員会報告

ゴルフ同好会(青山素久): 2月1日に浜松コントリークラブにて本年度1回目の青空例会が開催され安藤先生が優勝されました。

■スマイル

小林昭次、末広さくら: 角様、本日は貴重な卓話を頂き有難うございました。我々がお手本とすべきドイツの貴重なお話し、大変興味深く聴く事が出来ました。本当に有難うございました。

国際奉仕委員会: 本日は講演頂きました角様、貴重な話を聞かせていただきましてありがとうございます。また、卓話の設営をいただきました竹林さんに深く感謝します。本当にありがとうございます。

小林昭次、末広さくら: 松田ガバナー補佐、鈴木事務局長、本日は早朝よりお越しいただき有難うございました。今後共、ご指導の程宜しくお祈い致します。

原田道子: ガバナー補佐の松田宏一様、2月24日のIM開催おめでとうございます。楽しみにしています。鈴木健一様も今大変だと思いますが、どうぞお体に気を付けて下さいませ。昨年手術直後のIMでどじばかりしていたパストアシスタントガバナーの原田と、しっかりものの長谷川より応援をしています。

高木一浩: 昨日、2月2日無事還暦を迎える事が出来ました。これからもよろしくお祈い致します。

国際奉仕委員会担当

西ドイツのマイスター制度とドイツのものづくり

角 淳弥氏



日本の企業の駐在員としてドイツを訪れてから40数年。日本とドイツの経済、技術、文化活動の交流をお手伝いしていま

す。たとえばロータリーエンジンを日本に紹介したことがありました。たまたまこの技術が日本に紹介された様というときに、ドイツと縁があったのでお手伝いをさせていただきました。半世紀前の話です。幸いドイツと日本の自動車技術は世界的に見ても進んでいます。ドイツには日本の企業が探している技術がほとんどあります。

日本とドイツの関係は、最近中国に追い越されましたが、ドイツにとってアジアのなかで日本は重要なパートナーでした。ドイツからみた日本の市場は非常に参入しにくい。日本は非常にいいものを大量に生産する技術に優れているというのが一般の認識です。

ドイツの国土は、33万平方キロメートル。人口8200万。ビート（てんさいとう）から砂糖を作る技術を100年以上前に開発しました。酪農にも強く、自給自足ができます。

南ドイツは工業の盛んな地区です。私が滞在していたのはデュッセルドルフ。周辺を含めて日本人が1万数千人、生活しています。ここに日本人が増えたのは、戦後日本が産業を復興しようというときに、石炭とか鉄鋼とか重工業が必要とした機械、設備が、デュッセルドルフ近くの工業地帯にあったからです。ヨーロッパの中でも日本人として生活しやすい都市になっています。

南の方に工業が発達した地域があり、自動車産業もあります。フォルクスワーゲン、ダイムラー、アウディなどすべて南ドイツにあります。ドイツはあと7、8年たったら原子力発電をやめる。その代替エネルギーは、北海近辺の風力発電基地つくります。ところが送電網がないので、大量のエネルギーを北から南に持

っていくのは、今までの送電網ではできない。住民の反対もある。そういうことを政府は、3年前に原発廃止を決めたときに頭に入れてなかった。これが今問題になっています。

ドイツの教育の話をして。学校の話をする、日本と同じように6、7才で小学校に上がります。そして、10才、4年生のときに、進学組と就職組とに大きく分かります。ここが日本との大きな違いです。進学組はギムナジウムという学校に行って8年勉強し、就職組は実科学校に行く。子供にとっては10才で自分の人生が決まる。重要な決定をする時期です。

ドイツは非常にありがたいに、学校は小学校から大学まで無料です。入学金もありません。ドイツで職業生活をおおると、年金を取得する資格ができる。日本の大学で勉強した期間は、ドイツで勉強したとして、年金をかけたとして計算してくれる。非常にありがたい国です。

子供の学校は、自分の意見を鍛える場として考えられています。日本の学校は先生が前で喋り、こどもはノートをとって覚える。ドイツの学校は

インターアクティブです。先生が何かを質問して、子供たちに意見を言わせて最後にまとめるという教育です。子供達は自分が考えていることを言葉に出すという教育を受けています。

ドイツのマイスターは特定の技術に関するベテランです。「マイスター」というタイトルをとるまでにいろいろな教育がされています。教育のなかには人事関係の教育、会社を経営するための教育などがあり、普通だと、16、17才で実業界には入ります。会社に3日行って、2日学校に行く。職業生活と学校生活を1週間のなかで繰り返すということをやって。マイスターというタイトルを10年くらいかけてとります。マイスターのタイトルがないと、自営の看板が掲げられない社会です。パン屋でも肉屋でも、散髪屋でもそうです。

